広島女学院　北海道ブロック

初めての機関紙　　2020年５月25日

佐呂間町　　岡松直子さん

連絡を頂きありがとうございます。なかなか皆様にお会いすることができず申し訳ありません。私は３人の子供がおります。今年は長男が中学校卒業を迎えました。コロナウィルスの影響で卒業式の開催が危ぶまれる中、佐呂間中学校では規模縮小ではありましたが保護者も参加することができ、子どもの卒業を祝うことができました。長女、次女は中２、小４とそれぞれ進級します。長男は4月から親元を離れて江別市で高校生活を送ります。
子供達の生活を応援しつつ私自身もより成長していけたらと思っております。今までの生活に
戻るにはしばらく時間がかかると思いますが、皆様にお会いできる日を楽しみにしております。

室蘭市　高島陽子さん

今年８３歳になりました。１０歳上の夫も腰が悪い以外は元気です。
毎日３度の食事を作り、ガーデニングをしたり、週に２、３度カーブスに行って体を鍛えています。去年まではゴルフもしたのですよ。
次回夏でしたら集まりにも伺えそうです。再会を楽しみにしております。

函館市、　秋山千津子さん

私事でございますが、函館に１９８６年1月、私が３０歳の時に住む事になりました。４、５年で広島に帰るものと思っていたのですが、終の住処となりました。
というのも主人が北海道を気に入っていたからです。私もこの函館が好きで、特に大沼の景色は格別です。
７２年になる年を迎え、老人は昔のことはよく覚えているといいますが、女学院時代のいろいろなことが蘇り、同窓の皆様にお会いできる機会を楽しみにしております。
函館においでになるときは一声おかけ下さいませ。

札幌市、寺澤香織さん

広島女学院同窓会北海道支部の皆様

お久しぶりですの方。そして初めましての方。
札幌市東区在住の寺澤香織と申します。
最近は、新型コロナウィルスの流行で大変な状況になっていますね。
通勤で毎日地下鉄を使い、職場で大勢の人と接する身としては、得体の知れない恐怖を感じますし、物のないスーパーの棚を見れば、一昨年の胆振東部大地震後の状況を思い起こしてしまいます。
せっかくのオリンピックイヤーなのに、それどころではない騒ぎに冷静な対応を心がけたいと思いつつも、先の見えない状況に不安は尽きず、一日も早く感染拡大が収まるよう毎日祈っております。

さて、私は、広島女学院中高を卒業後、進学のため来道し、そのままこちらで就職し、道産子の夫と結婚し、春から中学一年生になる息子と暮らしています。
仕事のため、一時道南に住んでいましたが、札幌に転居した頃から、何度か同窓会の集いに参加し、美味しいお食事をいただきながら、幅広い世代の同窓生の皆様とのおしゃべりを楽しみにしてきました。
日頃はなかなか耳にできない、懐かしい広島の言葉やイントネーションを感じ、同じ広島や近郊県の出身、北海道在住者という立場での話題に共感する時間は、心温まる、大切なものです。
いつも同窓生の皆様との繋がりを保つため、色々ご尽力いただいている神野さんに感謝し、また皆様にお目にかかれる機会を楽しみにしています。

札幌市、五十嵐由美子さん

広島女学院の同窓生の皆さま、お元気でしょうか。
新型コロナウィルスの影響で何かと窮屈を感じてはおりますが、家族全員元気に過ごしております。
今年は私たち夫婦が札幌に住まいを移して15年目です。こちらに来て生まれた二人の子ども達も春には中2と小6になります。早いものです。
あと数年後には子ども達からも手が離れ、私自身50歳となりますので、それまでには人生後半戦の楽しみや生き甲斐など見つけられたら、と思っています。
季節の変わり目となりますので、皆さまご自愛ください。またお会いできる日を楽しみにしております。

恵庭市、　潟沼陽子さん

皆様いかがお過ごしでしょうか？
私は広島女学院英文科に約６０年近く前に在籍していた者です。
そして奇しくも１０年以上前になりますが広島女学院の同窓生の方々が北海道にいらっしゃる知らせを頂き、その集まりに参加させて頂きました。そしてその集まりが今も続けていらっしゃる事に感動しています。

実は私は女学院に入る以前はキリスト教に無縁で聖書も書店で見ていた感じでした。キリスト教概説が必須とのことで、テストもあり読んでいくうちにイエスに興味を持ち始め、キリストの道に入るようになり今に至っております。

そして今は大谷地にある札幌神殿の様々な儀式に参加させていただいています。その後の私どもは教会のプログラムで、神戸、甲府、広島、鶴岡と居を移してまいりました。そんなことで、これからはどのような選びをしたらよいか残りの人生の事を考えていますが、とにかく体の方が付いて行かないので、思案中です。

皆様の上に主の祝福がございますように心からお祈りしています。

札幌市、梶原英美子さん

ここ最近、高３の娘が一月から家におりまして、あまりに長くな流とたまにはお手伝いをするのですが、ほとんど自由気ままなのでこちらも疲れてきます。

そんな折コロナが突然浮上してきて特に北海道は雪祭りの影響なのか感染した方も多く早々と高１の娘に学校が休校になりました。その上習い事までお休みになり家にずっといます。
小さな子供が一人で留守番をすることに世の中の人は心配しますが大きな子供が家にいるのも大変だなと思っています。

私は自分の健康のためにここ数年ヨガを習っています。ヨガもお休みになり残念です。ヨガは心と体の成長になります。コロナが落ちついたらまた通います。

札幌市、山本美弥子さん

神戸生まれの広島育ち、結婚後はまた神戸で暮らし、夫の転勤で札幌へ来てこの春で丸20年になった。
当時7歳と4歳だった息子たちは其々の家庭を持ち、其々が2人の子供の父親となり、影も形もなかった札幌生まれの娘は16歳になった。
数年前から私もいくつかの仕事に就き、その度に交友関係も広がり今では新婚当時から9年間を過ごした神戸よりも沢山の友人がいるのではないだろうかと思う。この春からまた新しい仕事に就き新しい世界が広がりつつある。
でもこの数年、遠く離れた広島と札幌で遠距離介護を経験し、自分が介護される身になった時、果たして私はどこに住んでいるのだろう？とふと考える事が多くなった。その度に広島に住む唯一無二の親友との『老後は同じ老人ホームに入って楽しく余生を送ろうやぁ！』という約束を思い出し、きっと私は1人になったら広島に帰るのかもしれないな…と何となく思っている。
広島よ！それまで私のことを忘れずに待っていて。札幌が私を必要としてくれているから！

札幌市　神野純子

エッセイ、お送り下さり本当にありがとうございます！
今年は集いができず、みなさんと会えなくてとても残念でした。代わりに初めてのささやかな機関紙を作りました。つい札幌中心になってしまいなかなかお会いできていない同窓の方々が参加してくださって事感謝で一杯です。

北海道に来て初めてこちらにも同窓会支部があるとお誘いを頂いた時は、『女学院の方がいらっしゃるの？』と驚きました。時が経ち同窓会の意義もわからないままブロック長を依頼され、何をするのが良いのか迷いながら今に至っています。そんな中で、未熟児で生まれた同窓生の方の赤ちゃんが立派な中学生になったと知ったり、おかあさんと顔を見せてくれていた同窓生のお子さんが宝塚に入ったと嬉しいニュースを聞いた時、こうした繋がりが持てた私はとても幸せだなーと感じます。

私自身、思いがけず札幌に長く住むことになり、今は故郷広島と同じに札幌を愛しています。３０代で勉強を再開した英語は今でも私を支えてくれています。　女学院で学んだ全てがかけがいの無い事だと、今やっと分かります。

同窓会の手伝いをさせて頂いて、北海道在住の先輩、後輩の方達にたくさん会うことができました。皆さんすごく素敵なんです。寒さにも負けず生き生きと明るく、しっかりと生きてらっしゃいます。しみじみ素晴らしい学校だったんだなーと実感しています。

こうして同窓会に関わることができた事に感謝しています。北海道ブロックのみなさん、また会って楽しい事、辛い事　たくさんおしゃべりしましょう！！